

説明文の要旨をえらぼう

小5／文章を読んで、筆者がいちばん伝えたいこと（要旨）を1つえらびましょう

なまえ

ひづけ

1 天気予報のしくみを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

天気予報は、あてずっぽうで出されているわけではない。各地の気温・気圧・風・雲のようすといった大量のデータを集め、コンピューターで計算して、これからの空のようすを予想している。科学的な観測と計算の積み重ねが、毎日の予報を支えているのだ。

- 1 天気予報はあてずっぽうで出されている。
- 2 天気予報は科学的な観測と計算に支えられている。
- 3 天気予報にデータは使われていない。
- 4 天気予報は必ず当たる。

2 水を大切にを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

じゃ口をひねればいつでも水が出るので、水はいくらでもあると思いがちだ。しかし、きれいな水を使えるようにするには、多くの手間と費用がかかっている。世界には水にこまる地域も多い。水は限りある大切な資源だと考えて、むだづかいをしない心がけがもとめられる。

- 1 水はいくらでもあるので気にしなくてよい。
- 2 水を使うのに手間や費用はかからない。
- 3 水は限りある資源で、むだづかいをしない心がけが必要だ。
- 4 世界に水でこまる地域はない。

3 道具と人の工夫を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

人は昔から、くらしを楽にするために道具を工夫してきた。石を打ち欠いた刃物から、金属の道具、そして電気で動く機械へと、道具は少しずつ進歩してきた。道具の進歩の歴史は、よりよいくらしを求めてきた人の工夫の歴史でもある。

- 1 道具は昔から少しも変わっていない。
- 2 道具の進歩は人の工夫の歴史でもある。
- 3 人は道具を工夫してこなかった。
- 4 電気の道具は石の道具より不便だ。

4 多数決の落とし穴を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

話し合いで決めるとき、多数決はよく使われる便利な方法だ。しかし、多い意見がいつも正しいとは限らず、少数の意見の中に大切な考えがふくまれていることもある。多数決の前に、少数の意見にもよく耳をかたむけることが必要である。

- 1 多数決で決めれば必ず正しい。
- 2 少数の意見は聞かなくてよい。
- 3 多数決の前に少数の意見にも耳をかたむけることが必要だ。
- 4 話し合いに多数決を使ってはいけない。

🔍 いちごドリル プリント